

イラストコーナー

イラストは
たてに描いてね



PN.ワンピース さん



増田 友里 さん



西山 美沙妃 さん

▼小学2年生ころの写真(右2番目)。近所のいとこと一緒に仏壇の前でお札にみたてた紙をおでこに貼って「キョンシーごっこ」に夢中



このコーナーでは、みなさんからの便りをお待ちしています。
どんなことでもかまいません。どしどしお送りください。広報クイズの答えもお忘れなく。

《あて先》〒861-3296 御船町役場「おたより」係 ※住所を書かなくても届きます。

《Eメールアドレス》 kanri@town.mifune.lg.jp

※匿名希望の場合は、氏名の横にその旨を明記してください。ペンネームでもかまいません。

まちへのラブレター

みなさんからの便りをご紹介します。

昨 年12月、みふねデコボコ会が利用している高木の旧交流センターに、アメリカ在住の井上さんという男性が訪ねてこられました。十数年前、この施設が国際学校として利用されていた頃に友人の平原モナさんという女性が通っていた学校ということで見学にこられたようです。モナさんは御船育ちで、現在はハワイ在住。今年3月に現地のアメリカ人と結婚されたそうです。友人の井上さんは結婚の御祝いをモナさんに贈ろうとされましたが、「何かに役立ててほしい」という本人の願いで、井上さんからデコボコ会に寄付を頂きました。突然の出来事で驚きましたが、その真心に感謝の気持ちでいっぱいになりました。とても嬉しい出来事でしたのでお便りしました。真心の寄付は青年たちのために大切に使用させていただきます。

(みふねデコボコ会・寺本京子代表)

とても心温まるおはがきがありがとうございました。現在、デコボコ会さんが利用されている施設に懐かしく、温かい思い出が残されていたそうですね。モナさんと井上さんの友人関係がきっかけとなり、デコボコ会さんとの新しい出逢いにつながったそうですね。人と人とのつながりって不思議ですね。どこでどうつながっていくのか。今後デコボコ会さんの益々のご活躍を応援しております。

(広報担当)



先生の青春昔話

町内に勤務する先生に、子どものころの思い出を話してもらうコーナーです。

怖いもの知らずだったころ:



七滝中央小学校 松本 明葉先生
(熊本市出身・?歳)

子どものころ流行っていたのは中国の映画「キョンシー」(1985・1996)です。近所に住むいとこたちと「キョンシー」を真似て両腕を前にピンと伸ばし、家じゅうをピョンピョンと跳ね回っていました。そのときの必須アイテムが仏壇の鐘です。先頭に立つ最年長のいとこが鐘を鳴らすと「キョンシーごっこ」の始まりです。お供えのご飯やお茶も、遊びに欠かせない小道具でした。今思うと、なんて罰当たりな子どもたちだったのでしょうか…。

けれども、そんな私たちも日が暮れると一転。夜に「キョンシーごっこ」をすると本物が来ると言われており、急いで仏壇を片付け、「本物が来ませんように」とお参りをしていました。今でも実家の仏壇を見ると、怖いもの知らずだったあのころを思い出します。

文芸

ひとひねり

短歌

七年忌の夫の墓参に來し男吾の知らざる友との絆

山本志満子

政界の疑惑晴れざるニュース消し外に出ずれば梅の香匂う

市川 結子

いつの日か別れねばならぬ生身です整理なすことばつぼつせねば

甲斐レイ子

幽閉の箱を出されし雛人形不満も言わず齢もとらずに

金森 英子

有明の風やわらぎて春を告ぐまた待ち得たり老いのよろこび

北村ヤヨイ

今日もまた同じ手順の部屋掃除やがて離るるこの古家よ

古閑喜美子

立春に強霜降りて茎折れて庭隈に咲く水仙の花

平野 文子

俳句

竹藪の消え行く中で初音聞く

たさきゆみ

腑に落ちる落ちない話山笑ふ

黒田 順子

今昔の歴史を語る雛飾り

渡辺 澄江

手作りの変り雛あり町興し

緒方 新

初蝶匂うれしきことのつぎつぎと

坂田志美子

ととのはぬながら初音を聞いてをり

緒方 宣子

肥後狂句

天狗会

腹据えて 猛婦のびんたはつらした

大川 吾作

どんよりと まだ重箱に詰めきらん

増永 笑和

負け惜しみ 勝つばかりじゃ嫌わるる

坂本 周礼

しびれ切らして トイレに立たす三部経

坂田 とも

くつろいで 良うし本気で飲もうばな

平野 千鶴

切りつめて 母に仕送りしたおかげ

吉田 楽園

チェンジ 家事分担もハイタッチ

鳥井 蘭

当り前 猫ババしちやあいけません

江藤 お竜

つましく 俺を騙したその仕草

河地 ゆき

長居は禁物 話もつれんその前に

作田 お光

一般投稿

団子汁あまりのうまさ問うたれば唐辛つぶして粉に混ぜたとき

上田 昭江

梅雨空に咲く紫陽花の花きれいな色あざやかに咲きみだれてる

川部 笑子

晩秋のやはらかき陽に包まれて刈跡の稲田眠るがごとし

川部 清ノ

からっ風吹いてきたのか紅葉の葉 家の前にてふと見つけたる

栗永セツエ

夕暮に茜色して柿の実も小鳥の群れて残り少ない

黒田 昭二

庭先の夕日に映ゆるつた、もみじ、有明海と共に美し

染田 武茂

花粉症をかけて猥猛な犬とどく

内村 孝子

そのころはどちらも鼻(放)たれると大変です

内村 孝子

花粉症とかけて猥猛な犬とどく

内村 孝子

そのころはどちらも鼻(放)たれると大変です

内村 孝子

花粉症とかけて猥猛な犬とどく

内村 孝子

そのころはどちらも鼻(放)たれると大変です

内村 孝子

花粉症とかけて猥猛な犬とどく

内村 孝子

そのころはどちらも鼻(放)たれると大変です

内村 孝子

花粉症とかけて猥猛な犬とどく

内村 孝子

そのころはどちらも鼻(放)たれると大変です

内村 孝子